

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792530016		
法人名	株式会社 福祉介護計画		
事業所名	グループホーム猪苗代 1階		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲2855		
自己評価作成日	令和2年10月28日	評価結果市町村受理日	令和3年2月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年12月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

鳥のさえずりや緑に囲まれて自然を満喫出来て、常に季節を感じられる 交通が激しくなく静かに穏やかに生活が出来る 近所から通勤している職員が多く、地域との交流や情報のやり取りがある
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 運営推進会議委員には町職員が委嘱されており、行政と事業所は開所時から情報を共有し、良好な関係が継続されている。 2. 職員の過半数が永年勤続者であり、経験を活かした対応で他の職員の模範となっている。利用者の中には開所時からの入居者もあり、笑顔の絶えない安心した生活を楽しんでいる。 3. 自治会に加入しており、回覧板を通して地域の情報を共有し、地域の各種行事に参加して交流を図っている。また、近隣住民より事業所周りの除草や冬期間の除雪作業等も受け入れている。講話会やカラオケ等のボランティアも多く受け入れ、利用者の楽しみとなっていたが、“コロナ禍”の現在これらの行事はお休みにしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関及び事務所等に掲示して職員一同その理念を共有して実施している。職員会議開催時、職員一同理念を唱えて意識を持ち、年度初めに理念の見直しをしている。	地域密着型事業所の趣旨を踏まえ「なじみの地域で寄り添う介護」とし、毎年理念の見直しを行っている。理念は事務室に掲示し職員は随時確認しながら、月例の「職員会議」で唱和し全員が共有して日々のケアで実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員は地域の清掃活動、会議に参加し交流している。回覧板を回している。近隣の住人の方が除雪や草刈りなどして下さる。	自治会に加入し回覧板を通して地域の情報を共有し、地域の各種行事に参加して交流を図っている。近隣住民より事業所周りの除草や冬期間の除雪作業等も受け入れている。近隣農家からの多くの農作物の差し入れもある。現在「コロナ禍」によりボランティア等の受け入れは休止中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様の作品を町の高齢者作品展に出展している。避難訓練の際には、地域の消防団に参加してもらい入居者様の状況を把握して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2か月に一度会議を開き事故やヒヤリハットの報告をして対応策のヒントをもらったり意見交換をしている。	設立当初より、町職員・地域包括の職員が委員として委嘱されており、行政との情報交換も密接にされている。会議は年間を通して定期的に開催しており、意見や助言を得ながら事業所運営やサービスの質の向上に活かされてきた。「コロナ禍」により4月以降は会議資料の送付のみとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者と連携し相談や報告をしている。実地指導を受けて、改善につなげている。	運営推進会議には毎回町職員が出席し、事業所の運営状況等を理解していただいたり、磐梯地域のネットワーク会議に出席し情報交換を行うなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はせず、センサーを使用。歩行器に鈴をつける等して対応している。身体拘束の禁止については、職員一人一人が心掛けている。	平成30年に「身体拘束適正化委員会」を設置し年間を通して定期的に開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、言葉による拘束の弊害についても職員間でお互い注意し合いながら取り組んでいる。日中の玄関の施錠は無く職員の見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で内部研修を行い虐待防止に努めている。入浴時等には身体の観察をして見逃さないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用しているが職員全員が理解をしているとは言えないため学ぶ機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族と入居者様に十分な時間を取り、不安、疑問点を尋ねて説明し理解、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の日頃の意見を聞いて家族の方へ伝えたり、面会時に家族が施設への要望を気軽に話が出来るように心掛けている。	日常生活の中で利用者の意向や要望を聞き取っており、家族等からは面会時等に聞き取るよう心掛けている。家族会を年1回開催し、要望・提案を聞く機会も設けている。意見や要望は月例の「職員会議」等で検討し、事業所運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送りの他、全体会議時に職員の意見や要望を聞き、運営に反映させている。	管理者は日常業務の中で職員との会話を大事にし意見や要望を聞き取っており、月例の「職員会議」で全員で検討し事業所運営に反映させている。職員の資格取得には支援体制もあり有資格者には報酬制度もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人の状況を把握し各自がやりがいがあり向上心を持って勤務出来るように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加した職員により会議で伝達研修を行っている。職員は年に二回、目標を立てて自己評価を行い提出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関連しているグループホームとの意見交換や研修会に参加する事によりサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族の意向や希望、本人の希望を考慮し、安心してサービスを利用できるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意向や希望、本人の希望を考慮し、安心してサービスを利用できるように信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最優先課題を抽出して把握し可能の限り本人、家族の思いに寄り添うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴と共生を大切にしながらお互いの思いのもとに支え合いながら生活を築いていく関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会、誕生会、又、面会時にお話を聞くと共に、毎月のお便りを通し常に現状を伝え、家族の思いを受け止めながら支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の面会や、電話の取り次ぎも対応している。町の催し物にも出来る限り参加している。定期受診時に自宅近くまでドライブするなど馴染みの場所への関係を保つ支援を心掛けている。	友人等の訪問時にはゆっくり懇談できるよう湯茶等の支援をし、地域の行事に参加したり、買い物等外出の機会を通して、地域の方々や場所との関係が途切れないよう支援していたが、現在は困難な状態にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の触れ合いを大切にして状況に応じてスタッフが中に入り関わり合いを広げていけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも連絡が取れるよう対応している。サービス終了後も立ち寄り下さる家族や、野菜を差し入れして下さる方もいて馴染みの関係が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話を通して個々のニーズをくみ取り、やりたいことや得意なことを提供出来るように支援している。	担当職員が日々の生活の中での会話から利用者の思いや希望を把握している。意思表示が困難な利用者からは、表情・仕草や態度等から意向を汲み取っており、利用者本意のサービスに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族の面会時に話を伺い、これまでの生活環境や生活歴を把握し支援に反映している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や一人一人のアセスメント表等の記録や毎日の申し送りを通して日々の変化を把握し支援に生かすよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度にモニタリングを行い、担当者会議で家族や各関係者の意見やアイデアを聞き、介護計画に反映している。	生活歴や家族の要望等から現状に即した介護計画を作成し、その後個別記録や担当者の意見を基にモニタリングを行い、短期6カ月・長期12カ月毎に見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた時は、担当医師・看護師・家族・職員の意見等を参考に随時介護計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践等は必ず記録し毎日の申し送りにてスタッフ間での情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出の難しい方に代わって希望の物を買っている。家族に代わって受診の付き添いを行い柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、近隣住民の支援や、保育園児による豆まきの行事に参加するなど安心して暮らしを楽しめる支援をしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度定期的な往診体制が整っている。かかりつけ医に受診出来る様に支援している。	利用者のかかりつけ医の受診を取り入れており、受診には家族同行を基本としている。法人医師の訪問受診は事前に直近の生活及び身体状況を医師に情報伝達し、受診後診療記録に記載し、職員間で情報を共有している。受診結果は家族に連絡し事業所と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な訪問看護により常に看護師と連携を取り適切な受診や健康管理が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い、入院中も本人の状況を把握しスムーズに退院が出来る様支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を伺い、ホームでできることの説明をして方針を共有している。地域の訪問看護と連携した看取りが出来ている。	事業所では、「重度化・看取りに関する指針」を策定し利用開始までに本人と家族に説明し同意を得ている。看取りにあたっては、家族や医師・看護師が話し合い、全職員が意識を共有し看取り介護を実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練時に消防署員に指導を依頼している。職員は応急手当や初期対応について常に確認をしながら業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と連携した避難訓練を定期的に入居者と共に実施し、通報、消火訓練を消防署指導のもと行っている。ご近所との連携もしている。	消防署や地域消防団の協力で総合防災訓練を年1回実施している。また、運営推進会議では消防団の方から意見を頂いている。事業所独自では毎月、火災・地震の際の避難訓練、通報訓練、伝達訓練等を実施している。災害時に備え、飲料水・缶詰・麺類・ガスコンロ・ヘッドライト・衛生用品等を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人とのコミュニケーションに努め誇りやプライバシーに気を付けた言葉かけをしている。	全職員が接遇に関する研修を経て意識を共有し、利用者一人ひとりの人格を尊重しながらプライバシーに配慮した支援をしている。個人情報簿冊は事務所内で保管している。お便り帳に掲載する写真等は事前に掲載同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いを会話や生活の中から把握し関わりを増やし、自己決定出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて寄り添った介護をし、その中から希望を聞いたり読み取りをし、その人らしい暮らしが出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理容の希望を取り、本人が希望のヘアスタイルを注文している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事前の準備、テーブル拭きや後片付けなど職員が見守りしている。職員も同じテーブルにつき会話をしながら楽しい時間になるよう支援している。	献立表は職員が季節感を取り入れたり利用者の希望を聞きながら健康保持の献立表を作成している。事業所行事や誕生日祝いの行事食も多く、楽しみのある食事としている。利用者は、食材の下ごしらえや簡単な準備等を職員とともにしている。利用者の体調によりおかゆや刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事量、水分量の提供をしている。飲み込みが悪い方には刻み食やとろみをつけて提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の状況に応じて毎食後、口腔ケアを行っている。歯に不具合がある時には歯科受診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し声かけなどして自立に向けた支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を基に、経過時間や仕草等から静かに誘導し、トイレでの排泄を目指して支援している。便秘対策として軽い運動を行ったり水分の補給、乳製品等を取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を多くして体調に応じて牛乳の提供や運動等、個人にあった働きかけをしている。場合によっては医療と連携を図り下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の希望、タイミングで入浴できるよう支援している。	利用者の希望と体調に合わせて入浴を支援している。入浴を嫌がる利用者には時刻・話題・担当者を変える等行い、静かに誘導している。体調により入浴出来ない利用者にはシャワー浴・足湯や清拭で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望、状況に応じて休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように複数の職員で用量等のチェックを行い管理し、症状の変化に注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ居室掃除等、力を活かし意欲的に日々を過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族の協力を得ながら、支援している。ドライブなど外出を楽しんで頂いている。	好天時には事業所の敷地内を散歩する等気分転換が図れるよう支援している。現在は、“コロナ禍”により休止しているが、花見・紅葉狩りドライブ、外食等に出かけたり、家族の協力でドライブや墓参り等外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホームの金庫で行い希望にそって、買い物を代行したりいつでも使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったりイベントにあった飾りつけをしている。	机と椅子のエリアにはベランダがあり掃き出し窓から外に出られ避難時にも有効である。季節を感じさせる飾り付けを利用者と一緒に行う等、利用者が居心地良く過ごせるような空間作りを工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係を考慮してテレビ、ソファを配置している。一人一人が快適に過ごせる空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みのもの、家財を持参していただき自宅と極力近い状態で生活できるように配慮している。	各居室にはエアコン・換気扇・洗面台・衣装ケースが設置されている。利用者によってはポータブルトイレの利用もある。介護ベットの個人持ち込みで対応しており、畳利用も可能である。利用者は仏壇・テレビ・椅子等の持込があり自分らしい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所、居室が分かるようにプレートを付けたり文字を大きくするなど工夫して分かりやすくしている。		